

小学部5年 生活科 学習指導案

日 時 令和7年11月10日(月) 10:40~11:25
 場 所 小学部5年教室、小学部プレイルーム 児童数 6名
 授業者 田村夏菜(T1) 黒木良介(T2) 杉森利津子(T3)

1 単元名 調べよう～ゴムの力～

2 単元の概要

予想を立てる、自分でおもちゃを動かす、気付いたことを表現するという活動を通して、ゴムの力について学習していく。ゴムの力や力の大きさの違いに注目し、試しておもちゃを動かしたり、面白さや気付いたことを表現したりする活動を通して、自分が試したことでおもちゃの動き方が変わることに関心することを期待する。

3 単元の計画

(1) 単元の目標 (本単元で扱う主たる各教科の内容のまとめ)

段階	内容のまとめ	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
1 (1名)	ものの仕 組みと働 き	風やゴムの力によって物が動く様子に関心をもつ。	風やゴムによって物が動くことに気づき、教師と一緒に他者に伝える。	風やゴムの力で物が動くことについて知ろうとする。
2 (1名)		風やゴムの力で物を動かすことができることに気付く。	空気の流れを視覚的に捉えるなどして、風やゴムの働きに気づき、それらを表現する。	風やゴムの働きに関心を持ち、実験するなど自ら学習に取り組もうとする。
3 (4名)		風やゴムの力の大きさを変えると、物が動く様子が変わることに気付く。	風の力を利用して動く車のおもちゃなどを通して、風やゴムの大きさによる違いを調べ、気付いたことを表現する。	風やゴムの大きさによる違いに関心を持ち、積極的に学習に取り組もうとする。

(2) 個別の手立て (配慮事項・支援内容)

児童名	段階	配慮事項・支援内容
A	2	<ul style="list-style-type: none"> ・予想や試した結果を言葉で伝えることができるように、選択肢を提示したり手掛かりとなる記録を準備したりする。 ・自分で十分にゴムを使って動かしたり、おもちゃの動きの違いに注目したりすることができるように、活動グループを工夫する。 ・3段階を意識し友達の車の動かし方に注目を促したり、「強い・弱い」「大きい・小さい」などの言葉を意図的に使って比べたりする場面を設定する。
B	3	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりの考えを言葉で伝えることができるように、予想する時間を設定したり、実験の様子を思い出すことができるように「強く引っ張ったらどうなったかな」と具体的に発問したりする。 ・自分で考えたことを試すことができるように、活動時間を設定する。
C	3	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉で伝えることができるように、選択肢を提示したり、文章で伝えることができるように、本人の発言を受け止めて正しい文章で返したりする。 ・ゴムの力に注目することができるように、「どのくらい引っ張りましたか？」等具体的に促す。 ・めあてに沿った活動ができるように、注目してほしい視点をしぼって伝える。
D	1	<ul style="list-style-type: none"> ・物が動く様子に関心することができるように、教師と一緒にいたり、意図的に本人の動きを待ったりする。 ・じっくり活動したり、おもちゃの動きに注目したりすることができるように、グルーピングや物の配置を配慮する。 ・手からおもちゃを離したら動いたことに気付くことができるように、本人の気づきに言葉を添える。

E	3	<ul style="list-style-type: none"> ・一時間の学習に集中して取り組むことができるように、役割と活動を設定する。 ・伝えたいことが伝わる経験を積むことができるように身振りや文字カードを使ったり、ポイントとなる言葉の模倣ができるように、口元を見せて模倣を促したりする。
F	3	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学びや活動で行ったことを思い出すことができるように、実物を提示する。 ・本人の気づきを言語化できるように、教師が言葉で返したり、やりとりしたりする。 ・自分で飛行機や車を動かしたり、動きの違いに注目したりすることができるように、活動グループを工夫する。

(3) 指導計画（総時数6時間）

小単元名・学習活動		時数	小単元で扱う指導内容
第一 次	「調べよう～なんの力～」 ・ひも、りぼん、ゴム等身近なもので試す。	1 (1)	・準備したおもちゃを動かすためには何が必要か知る。
	「調べて伝えよう～ゴムの力～」 ・飛行機で調べよう	4 (1)	・飛行機のゴムの力の大きさを変えると跳ぶ距離はどうなるか調べる。
第二 次	・コツを伝えよう	(1)	・もっと遠くに飛ばすためには、どうすれば良いか試す。 ・先生たちと一緒に飛行機を飛ばして、ゴムの力の大きさを変えると飛ぶ距離が変わることを伝える。
	・車で調べよう	(1)	・車のゴムの力の大きさを変えると、車の動く距離はどうなるか調べる。
	・コツをつかもう	(1) 本時	・ねらったところに車を止めるためには、どうすればよいか試す。 ・力の大きさを変えると動く距離が変わることを伝える。
第三 次	「ゲーム大会をしよう」	1 (1)	・ゴムを強く引っ張ったり、弱く引っ張ったりしてねらった場所に、車を止める。

(4) 単元の評価規準

段階	内容のまとめ	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
1 (1名)	ものの仕組みと働き	風やゴムの力によって物が動く様子に関心をもっている。	風やゴムによって物が動くことに気付き、教師と一緒に他者に伝えている。	風やゴムの力で物が動くことについて知ろうとしている。
2 (1名)		風やゴムの力で物を動かすことができることに気付いている。	空気の流れを視覚的に捉えるなどして、風やゴムの働きに気付き、それらを表現している。	風やゴムの働きに関心を持ち、実験するなど自ら学習に取り組もうとしている。
3 (4名)		風やゴムの力の大きさを変えると、物が動く様子が変わること気付いている。	風力を利用して動く車のおもちゃなどを通して、風やゴムの大きさによる違いを調べ、気付いたことを表現している。	風やゴムの大きさによる違いに関心を持ち、積極的に学習に取り組もうとしている。

4 本時の計画（指導計画 第3次 6時間中の5時）

(1) 本時の目標

1段階	教師と一緒に車を引っ張り、自分から手を離したり動いた車を見たりする。
2段階	「強い」「弱い」が分かってゴムを引っ張り、結果を「遠い」「近い」という言葉で表現する。
3段階	シートのメモリや言葉を手掛かりにゴムを引っ張ってねらった場所に車を止める。

(2) 学習過程

時間 (分)	学習活動	指導上の留意点	
		全体	個別
10:40 (1)	1 あいさつをする		
10:41 (3)	2 学習内容を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 前時の学習内容を思い出すことができるように、ゴムで動く車を提示し振り返る。 本時はゴムを引っ張る力の大きさを変えて、車の動き方を調べることを伝える。 	A: 何を使っておもちゃを動かしたか伝えることができるように、選択肢を提示する。
10:44 (3)	3 めあてを確認する。	めあて ねらった場所に止めるには、どのくらい引っ張ればよいだらう	
10:47 (8)	4 予想する。	<ul style="list-style-type: none"> 大きさを変えることが分かるように、目安を示したシートの選択肢を提示したり、距離を示した視覚的支援を提示したりする。 	
10:55 (20)	5 グループごとに調べる。 A: A・D (小学部5年教室) B: E・F C: B・C (小学部プレイルーム)	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちでゴムを使って車を動かす活動を設定する。ゴムの力がどのくらいだったか分かるように、補助シートを使う。 止める場所の目印を準備する。 グループごとに記録用紙を準備し、ゴムの力の大きさを変えると車がどうなったか記録できるようにする。 動きが変わったことに気付くことができるように、児童のつぶやきに共感したり、記録したりする。 実態によって調べ方を変え、補助シートや目印を使いながら、分かったことを伝えられるようにする。 	C・F: やることが分かり、ゴムの力の大きさに気付くことができるように、シートやコースに目印を付ける。 E: ゴムの力の大きさによって車の動きが変わることが分かるように、発問したり、行動に言葉を添えたりする。 D: 自分で操作できるように、自発的な動きを待つ。 A: ゴムを引っ張る力を変える目安となるシートを準備する。
11:15 (6)	6 分かったことを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> 自分が気付いたこと、楽しかったことや分かったことを発表する場面を設定する。 	
11:21 (3)	7 まとめる。	まとめ 青い場所に止めるには、弱く引っ張る。 赤い場所に止めるには、強く引っ張る。	
11:24 (1)	8 あいさつをする。	<ul style="list-style-type: none"> 児童の言葉でまとめることができるように、まとめは空欄にして提示する。 次回の学習を確認して挨拶をする。 	

